

Vol. 94

編集 環境パートナーシップちば  
 代表 桑波田 和子  
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
 (一財)千葉県環境財団業務部  
 環境活動支援課  
 電話 043-246-2180  
 FAX 043-246-6969



# だより

— つながれ ひろがれ —

## エコメッセ2013in ちば開催お礼

エコメッセちば実行委員会 委員長 桑波田和子

9月28日の「エコメッセ2013in ちば」にご出展・来場いただき、誠にありがとうございました。

ご出展者の皆さまには、出展内容等を工夫され、来場者が環境について気づき、楽しく学べる場をご提供していただきました。出展分野も、温暖化防止、循環型社会、生物多様性、ものづくりなど多岐にわたり、来場者にとって貴重な体験・学びの場となりました。

今年は、環境・地域貢献などの大学などの取組を紹介する「スクール環境メッセ」や環境と福祉の協働「はーとふるメッセ」、環境アニメの上映会、元気もりもり千葉の物産展など新たな取組も実施しました。

お陰さまで、来場者は10,200人に達し、子どもから大人まで幅広い年代の方々が参加され、盛況に開催することができました。

これもひとえに、皆さまのご支援、ご協力の賜物と深く感謝しております。

昨年に引き続き、企業や市民団体・学校・行政

など団体同士の連携・協働による取組を促進する「環境協働創造市」も実施しました。参加団体から自分たちができることや一緒にやりたいこと・やれることなどが提案され、エコメッセの場を活用した様々な交流が行われました。



「つながれ ひろがれ エコメッセ」のテーマを、さらに推進する場として活用していただきたいと思います。実行委員会としても、今後の連携・協働による取組の展開に期待し、これからもご協力申し上げる所存です。

今後とも、皆さまのご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げますとともに、来年のエコメッセは、平成26年9月23日(祝)幕張メッセで開催の予定です。またお会いできることを楽しみにしております。

## 「スクール環境メッセ」を実施して

エコメッセちば実行委員 谷合 哲行

エコメッセ2013 in ちばの実行委員会として、今年度は実行委員会側からテーマ性を持った企画を提案し、出展者を募る形で準備を行いました。通年型の事業である環境協働創造市・マッチングメッセを通じて、エネルギー関係の団体の活動や福祉系の事業と環境学習のコラボレーションなどが中心テーマの候補として検討されました。中でも環境学習を行う教育機関と地域の市民団体、環境関連企業をつなぐ機会を提供する「スクール環境メッセ」は、今年度の中心的な企画となりました。

実行委員会のメンバーを中心に県内の大学、短大、高校など、環境教育に関係している多数の教育機関に案内を出したり直接訪問したりすることで出展依頼を行い、エコメッセ当日には、10の大学を含む12の教育関係機関・12の環境学習団体から76ブースもの出展をいただき、国際会

議室で大きな企画として実施することができました。環境学習に取り組んでいる教育機関が、ここまで集まって活動紹介をするイベントは例



を見ないものであり、進学を考える高校生や中学生、環境学習に興味を持つ市民の方々と、教育機関との橋渡しをする機会になりました。特に国際会議室中央にそびえたつ上総掘りのやぐらには、参加した市民の方ばかりでなく、出展団体や運営スタッフ一同が驚かされるとともに、千葉県のもつ環境学習教材の奥深さを再認識させられるものでした。

今年度については、教育関係の出展を一つの会

議室に集約するところまででしたが、今後はこちらから交流を促進するような企画を提案してもよいと思いました。今回のエコメッセをきっかけに、多くの教育機関にも環境協働創造市・マッチングメッセに参加していただき、地域における環境学

習・環境教育の情報発信拠点としての役割を担っていただくことができれば、地域全体の環境意識の向上や環境イベント・まちおこしイベントの活性化につながるのではないかと期待されます。

## エコメッセ2013 in ちば 「ナガエツルノゲイトウ」パネルを展示

2013年9月28日に幕張メッセにおいて開催されたこの行事に、環境パートナーシップちばは標記主題を展示し参加した。印旛沼や花見川に繁茂したナガエツルノゲイトウの写真パネル等を、2コマのスペース一杯活用して貼付展示し、小倉・中村・吉田の3人で説明した。

ナガエツルノゲイトウについては、環パちばで昨年4月12日、10月5日、今年6月21日に花見川の分布調査を行い、その報告を本紙85号、88号に掲載している。また、昨年11月15日に第54回環境パートナーシップエコサロンをナガエツルノゲイトウについて開催し(88号に報告)、91号からは「ナガエツルノゲイトウ Q&A」も連載中である。

しかしながら、ブース訪問者のほとんどは、ナガエツルノゲイトウ、特定外来生物という言葉も初めて聞いたといい、もっと広く知らせる必要性を強く感じた。ブース訪問者には、展示パネルや写真を指しながら細かい説明を受けて納得される見学者も少なからずおられ、母子で熱心に質問される方も見受けた。

ブース来訪者には、フウセンカズラの種5粒と写真入りの袋を手渡した。桑波田実行委員長の案内で熊谷俊人 千葉市長が当ブースを視察され、説明する機会もあったが、特定外来生物の駆逐に関

心がおありのようで、熱心に説明を聞いていただいた。

訪問者のいない隙を見て、担当者3人が交互に他の展示ブースを見学することにした。

他団体のブースを見学して感じたことであるけれど、環パちばブースの来訪者が思ったより少なかった。ブースの場所的なこともあるとも思ったが、机を整然と並べたブースよりも並べ替えや床に直接展示品を置いているブース等の来訪者が多いように見受けた。

例年ブースに「環境パートナーシップちば」ののぼり旗を立てていたが、今年は立てていなかったから、目印が分からなくて来訪者が少なかったのは不明であるが、のぼり旗がある方が分かりやすいのではないかと考えた。

最後に、今回展示した写真等の多くは、「佐倉印旛沼ネットワークの会」(堀川武代表)からお借りしたものである。貴重な資料を快く貸し出して下さったことに対し、厚く御礼申し上げます。

(文責 吉田 陸)



## 「ESD環境教育20プログラム」私が実施するなら・・・

ELCoの会 大西 優子

環パちばが参加するELCoの会では、環境省が実施する「ESD環境教育モデルプログラム」実証事業の千葉地区を担当しており、9月28日に行われたエコメッセにおいて20のプログラムに一言コメントを付けて貼りだし、アンケート(回収数106)とともに、来場者に自分の興味のあるテーマを選んでいただきました。

1位「身近な自然と水と生き物のつながり」、2位「ごみ減らし大作戦」、3位「川は自然の宝物」「命の水」、4位「公園・探検・発見・ほっとけん」、5位「ふるさとのきれいな海を守ろう」、6位「1人ひとりのエコが地球の未来を救う」、7位「みどりなライフ」「ちがう国でも同じこと」が選ばれま

した。来場した子どもたちは、ごみ減らし大作戦が面白そうと話していました。

アンケートでは、ESDプログラムを実践するに当たっての課題については「実践の場が少ない」「学校教育の枠組みにうまくつながるプログラムを作るのが難しい」「遊びながら学ぶ環境が必要」等々の意見がありました。

全国から応募のあったプログラムを20の絞り込みにかかわった石田好弘先生(小学校副校長)の講演では、ESDとは何か・学校と繋がる上で大切なことなど貴重なお話があり、実践に活かそうと参加者からの質問が予定時間を超えてありました。

## 環境学習指導者養成講座導入コースが終了しました

平成25年度千葉県環境学習指導者養成講座導入コースは、9月15日に開講し、11月9日に終了しました。講座は、地域で環境保全活動をしたいと考える環境学習指導の初心者の方を対象に、昨年の講座でも好評だった（だより88号参照）団体の活動から学ぶ環境学習を目指し、1日目には、環境とは・環境保全活動の担い手になるには・アイスブレイキング実習・参加体験型の環境学習、といった基本的な学習をしました。

2日目には、インターン受け入れ団体の講師に、各々団体が持っている環境課題と、その課題解決のために団体がしている活動内容と、3日間のインターンシップ活動をお話していただきました。その団体とは、アースドクターふなばし・アーバンネイチャーマネジメントサービス（谷津干潟自然観察センター）・浦安水辺の会・環境パートナーシップちば・GONET・グループ2000・せっけんの街・ストップ地球温暖化千葉推進会議・千葉県環境財団・千葉自然学校・ピオスの会で、インターンシップ受け入れの日程調整から準備、実施まで時間をかけてご指導いただき、大変お世話になりました。

中間ふりかえりでは、受講生がお互いのインターン先での活動のふりかえり・わかちあいをを行い、午後は「課題解決



ワークショップ」としてブレインストーミング実習を行って、各自のインターンシップ活動に戻りました。

最終日には、団体・インターン生からのお互いの活動報告をしてふりかえる中で、他の団体の活動も知ることができたと考えています。最後に受講生に事前の宿題としていた「今後の活動計画」の力強い発表があり、団体講師から応援メッセージをいただき修了となりました。この講座を通して受講生には、団体での貴重な体験を通して有意義な学びをされたと感じました。受講生の今後の活動に期待しています。

団体のアンケートから、3日間では、団体の活動を理解するには時間が少なかった。1週間は最低必要なのではというご意見もいただきました。講座の中で発表するトレーニングが少なかったことから、「自分の考えをまとめて人に発表する伝え方」のご提案もいただきました。また、集客が事業成功への最大のキギであることや、インターン先には分散させずに2名以上で受講の方が経験が深まる効果があるのではないかとのご意見や、土・日曜日は団体にとって大事な活動日であるので、平日の夜間等も時間帯に組み込んで等、具体的なご意見もいただき、今後の検討課題とさせていただきます。団体のみなさまにはご協力をありがとうございました。

（環境学習担当 横山清美）

## 導入コース受講生の声から

最終日に行った受講生アンケートから、まず、この講座を知ったきっかけは「県・環ぱのHP」が10%、「公共施設で配布しているチラシ」が20%、「知り合いなどからの紹介」が40%、「その他」が22%でした。また、本講座に対する評価は、「満足・やや満足」が78%、「やや不足・不足」が22%、「不十分」が0%という回答でした。団体の紹介や実際に行ったインターンシップでの体験が役に立ち、逆にインターンの時間が少なかったことが不足と感じたという回答もありました。

インターンのふりかえりでは、受け入れ団体の会議で意見が活発に交わされていたこと、組織力の良さ、環境学習講座の準備の良さ、手作り教材などに感心、参考になった。また、農作業は予想していた活動内容ではなかったが初めての体験でとても参考になった、野外活動は体力的にもかなり大変、山や海の自然の美しさや豊かさを改めて体感など、非日常を味わい楽しむ声も聞かれました。赤外線カメラを用い、夜間の動物の行動の撮

影に関わるワークを体験した方もいました。様々な準備や配慮をし、親切にインターン生を迎え入れてくださった団体に対する感謝の声もありました。

そして、これからの活動計画の発表では、もっと自分を育てる、今取り組んでいることを充実させる、家族や友人、職場の人たちに知らせる、仕事にいかす、また、自分の取り組みたい事を見つけたという声も聞かれました。

インターンシップ先を決め、3日間の活動の日程調整をすることは、受入れ団体と受講生の両者にとって大変で、さらに台風や雨の影響で、せっかく決めた活動日程や内容の変更を強いられるケースもありました。

しかし、様々なハプニングも含め実体験を終えた受講生の皆さんの多くは、今後の方向性に手ごかりを得ることができ、手間暇かかった分、充実し意義のある講座内容になったように感じました。

（文責 中村明子）

## インターンシップ受入れ報告 ～雨のインターンシップ物語～



「いのちの森の日 10月」前日準備の10月5日(土)すでに雨…、子ども達も楽しみにしていたのに。校庭には水たまりがたくさんできてしまい、脱穀・糶摺り作業は不可能なため10月20日に延期になりました(T\_T)

10月6日(日)いのちの森の日は延期になりましたが、本多さんがいのちの森を訪ねてくれました。空中デッキに上って森の全景を眺めました。

10月19日(土)延期になったいのちの森の日の前日、準備は済んでいるので昨年からの活動を始めた千葉市緑区大木戸の里山へ！朝8時、稲毛駅を出発。

横田代表からいろいろお話を聞いたり作業の説明を受けました。山の広場ではアケビをたくさん発見しました。グループのメンバーのリクエストに応じてアケビとりがんばってくれました。この後アケビを食べました。初体験だったそうです。台風のおかげで大木がなぎ倒され、整備した山道は塞がれました。倒れた木を道の脇に寄せながら通路を確保しました。近隣の谷津田を散策。

11月3日(日) 里山整備2日目です。今回

は台風のためにU字溝に詰まった砂を掻き出した。夏の間伐り出したメダケを燃やします。里山整備は地味で大変な作業の連続です。焚き火の残り火の周りで昼食。参加者に本多さんが現在取り組んでいる《アオサ》のお話を発表してくれました。

台風に見舞われ、残念ながら環境学習の現場での体験ができませんでした。インターンシップ期間が終了してもぜひまた参加して、今度は学習の指導を体験していただきたいと思います。お疲れさまでしたm(\_ \_)m

以上、インターンシップ受け入れ団体のグループ2000(環境に学ぶ)(\*88号参照)の活動報告から転載させていただきました。

(文責 横山清美)

## 発展コースを開講しました

### 「学べる！ 使える！ 体験できる！ 環境学習プログラムづくり」

コーディネーター 桑波田 和子

発展コースは、公民館などにおける一般市民対象の環境講座や学校における児童・生徒対象の環境学習の指導者として、実践できる指導技術を身につけることを目的としています。22名の受講生で11月24日に開講しました。

第1日(11月24日)は、主催者の千葉県環境生活部環境政策課温暖化対策推進班 細野義博氏に挨拶をいただき、5日間のスケジュールなどオリエンテーションを行い開講しました。

まずプログラムづくりを始める前に、必要と思われることを1日の講座内容とし、講義および体験学習を取り入れました。講座のプログラムは、以下のとおりです。

- ①受講理由から「講座で具体的に何を学びたいか」
- ②千葉県環境学習基本方針の概要と環境に関する国際、国、県の動向(講義)
- ③ちばの環境課題(講義)
- ④ファシリテーターとは(講義と体験)
- ⑤アイスブレイキング(講義と体験)
- ⑥合意形成アクティビティの体験
- ⑦ふりかえり・わかちあい(講義と体験)

各講師は、受講生が「講師の立場に立つ」という視点を取り入れて、講義を行いました。

出席した受講生からは、「環境課題を地域の視点で見る場合に、地域外の視点など広く情報を取り入れることも重要」「ファシリテーターとしての役割認識の再確認ができた」「合意することの難しさ」「自分自身の弱点を克服したい」など、前向きなふりかえりを多く頂きました。

2日目からは、具体的なプログラムづくりに入ります。

講座の実施は、講師、グループ学習をサポートするファシリテーター、講師と受講生をつなぐコーディネーター、事務局の体制で臨んでいます。実施団体としては、残り4日間を大切な時間とし、緊張しながら受講生の力になれる講座を目指していきます。



## 平成25年度みためし行動

### 「特定外来生物ナガエツルノゲイトウの分布調査」

八千代市 安全環境部 環境保全課長 頭司 孝弘

本市では、千葉県と印旛沼流域13市町等で、印旛沼流域水循環健全化計画に基づき、「みためし（見試し）行動」と称し、印旛沼の良好な水循環再生のための具体的な行動を進めております。今年度におきましては、桑納川及び新川周辺における特定外来生物であるナガエツルノゲイトウの分布調査を中心に実施いたしました。

- 1 日時：平成25年10月8日（火）  
9時30分～12時30分
- 2 場所：やちよ農業交流センター  
（八千代市島田2,076番地）
- 3 調査場所：桑納川及び新川周辺
- 4 参加者：50名

（八千代市、千葉県、独立行政法人水資源機構、千葉市、印旛土地改良区、桑納川沿岸土地改良区、市民団体等）

分布調査を行う前に、千葉県生物多様性センターの柴田副主幹による、「ナガエツルノゲイトウについて」の講演をいただいた後、実際に桑納川及び新川周辺におけるナガエツルノゲイトウの分布調査を実施しました。

桑納川については、富士美橋から桑橋の間を調査し、参加者の方には地図上にナガエツルノゲイトウの分布を記入していただき、新川については、独立行政法人水資源機構千葉用水総合管理所（以下「水資源機構」）のご協力により、大和田排水機

場と八千代橋の間を船で調査を行うことができました。

分布調査後に意見交換会を行い、参加者の方々から各々の立場からご意見をいただきました。水資源機構のご担当者からは、ナガエツルノゲイトウが、実際に大和田排水機場へ与える悪影響について映像を見ながら講演をいただきました。意見交換では、ナガエツルノゲイトウを除去する抜本的で具体的な方法は得られませんでした。今後は、印旛沼流域水循環健全化会議の場においても、印旛沼周辺の状況を積極的に情報発信し、印旛沼流域全体の問題として解決する取り組みを進めてまいりたいと考えております。



桑納川の護岸に繁茂するナガエツルノゲイトウ



新川（城橋付近）の船の周りに繁茂している

#### ＜意見交換会での主なご意見＞

- ・連携の姿勢が大事。情報を発信していただくことで、人を動かすことができます。
- ・今回の調査に参加して、初めてナガエツルノゲイトウの現状を知ることができました。
- ・花見川においてもナガエツルノゲイトウは増加傾向にあります。
- ・ナガエツルノゲイトウの根絶は絶望的ではありませんが、ナガエツルノゲイトウの数や密度を下げることには意味があります。農業の被害、施設への被害のリスクを減らすことができます。
- ・八千代市は、まだ大丈夫だと思っておりましたが、実際は水田にも生育が確認されました。
- ・船に乗り、新川を調査した際は、コンクリート護岸の近くでさえ、ナガエツルノゲイトウの生育が確認されました。
- ・農家の立場から、水田にナガエツルノゲイトウが侵入してきて困っています。稲刈りの際にコンバインが詰まり、ベルト等への損傷があり、駆除の方法や駆除する時期など、具体的な情報

をいただきたいと思います。

- ・ナガエツルノゲイトウの切片の活性が低い秋や冬のほうがよいとは言われています。特定の除草剤は効果がありますが、稲にも効いてしまうため、取り扱う際には注意が必要です。
- ・物理的な防除が一番よいと思います。拡散しないようにすることが大事であり、一度拡がってしまうとその後には打つ手が厳しくなります。
- ・水の流れてナガエツルノゲイトウが拡がるのは自明ですが、トラクターが畑を移動する際に、トラクターに付着したものが拡散することも考えられます。

解決していかなければならない問題点が出され、それを共有することができたのではないかと思います。

結論は出ていませんが、駆除への糸口について示唆に富むご意見が大変多くいただきました。今後の取り組みの参考とさせていただきます。



## 「平成25年度特定外来生物ナガエツルノゲイトウの分布調査」に参加して

10月8日(火)八千代市主催の調査に環境パートナーシップちばも参加しました。

当会は、花見川でのナガエツルノゲイトウの調査を千葉市、花見川の環境を守る会、佐倉印旛沼ネットワークの会、印旛沼土地改良区、(独)水資源機構、千葉県生物多様性センター、印旛沼流域水循環健全化会議の方々とも連携し調査を実施してきました。

今回は花見川へと流れてくる新川でのナガエツルノゲイトウの分布調査に参加でき、見解が広がると同時にショックがありました。それは、参加された八千代の土地改良組合の方が、「田んぼにも、ナガエツルノゲイトウが広く生育し除草剤も効果

がない」「八千代市内の田んぼの7～8割は既に生息している」と話されたことです。

調査に参加された(独)農業環境技術研究所の研究者の方は、「効果のある農薬を使用すると他の植物にも影響がある」とアドバイスがありました。河川だけでなく田んぼに広がり農業者への影響もあることから、官民あがての取り組み(連携・協働)の必要性を強く思いました。環境パートナーシップちばは、今後「ナガエツルノゲイトウプロジェクト」として、さらなる活動を展開していく所存です。

(文責：桑波田)

### ナガエツルノゲイトウ Q&A その4

Q：今年の10月の台風26号は、伊豆大島に大きな被害があったけれど、千葉県でもずいぶんたくさん雨が降りました。印旛沼ではどうだったのでしょうか。

A：千葉県各地でもこれまでにないような大雨で、印旛沼流域では1日の降雨量が、佐倉アメダスで300mm超、成田では330mmと記録されています。流域に降ったこれらの雨が印旛沼に流れ込んだため、沼の水位は一時は通常より2m近くも上昇してしまいました。

Q：じゃあ、印旛沼の湖岸や流入河川の河口などにあったナガエツルノゲイトウは、全部流れてしまったの？

A：全部ではないけれど、浮島のようにになっていたナガエの群落の多くは、流されてしまったようだ。

Q：じゃあ、これで印旛沼のナガエツルノゲイトウの問題は、解決したんだね。

A：とんでもない！そんな甘くはないよ。

Q：どうして？流れてしまえば、きれいになるでしょう？

A：溶けて消えてしまうのではないから、流れて行った先でどうなっているかが問題なんだ。印旛沼の場合、水位を元に戻すために大和田機場から放水したのだが、水と一緒にナガエが大和田機場のほうに流れてきて、機場のフェンスに大量に引っかかった。機場ではナガエをかきあげて、処分の前に水気を減らそうと積み上げていたが、ナガエの中に魚が絡まっており、それが腐ってひどい臭いを発していたらしい。

また、川の下流のほうに切れ端になったナガエが流され、流れ着いた新しい場所で新しい群落ができていくんだ。印旛沼環境基金の本橋研究員も「洪水の次の年はナガエツルノゲイトウが大繁茂する」と言っているよ。

(小倉久子)



2013年6月21日の弁天橋上流



2013年10月30日の同じ場所



大和田機場に流れ着いたナガエツルノゲイトウ。ナガエだけでなく、他のゴミやハクレンなどの魚も絡まっていた。

## エコクッキング講座報告／幕張本郷公民館

環境教育講座の一環として、9月27日金曜日に幕張本郷公民館でエコクッキング講座を行いました。参加者は、10名。若い主婦、ベテランの主婦に交じて男性も1名参加されていました。

まずは「買い物から後片付けまでの全ての工程がエコクッキング」という説明とともに調理時のエコポイント（①省エネで調理を行う工夫 ②ゴミを減らす工夫 ③水を汚さない工夫）を説明。参加者は2班に分かれ、余熱を利用して仕上げる「ロールチキン」の調理を行いました。仕上げをワンプレートにすることも、エコの工夫の一つです。参加者の皆さん全員で、和気あいあいと調理を行うことができました。若いママたちに、同時調理や圧力鍋実験レシピを見せたところ、「手間を省き、簡単でしかもエコ」と大変喜んでもらえ、男性参加者のアンケートでは、「定期的にエコク

ッキング講座を開催してほしい」という熱い感想をいただきました。

エコクッキングは特別な調理メニューなのではなく、「ここがエコ」という点を押さえることで、どんなメニューもエコクッキングになることを体験して楽しんでもらい、毎日のお料理に取り入れていただければ幸いです。どうもありがとうございました。（文責 広田由紀江）



## アオサについて考える集い

今年は谷津干潟がラムサール条約登録湿地になって20周年で、谷津干潟自然観察センターでは記念行事第3弾として、10月27日（日）に「アオサについて考える集い」が開かれました。当日は台風27号の余波で多少風が強かったものの、お天気に恵まれ1,506名の参加者の一人としていろいろなイベントを楽しむことができました。

この「集い」は「谷津干潟ユース」という高校生・大学生のグループが中心になって企画・準備を行い、当日もスタッフとして活躍していたのは、素晴らしいと思いました。

### \* ミニトーク

「アオサのひみつ」(国立環境研究所・矢部徹氏)と「海藻利用のおはなし」(海藻研究所・新井章吾氏)というテーマで、アオサの最先端の研究成果や全国各地の海藻の利用の様子を、それぞれ分かりやすく話していただきました。アオサについて、普段はとかく悪者扱いにしているのを、お二人とも本当にワルなの？という視点から話されていて、とても新鮮でした。

### \* アオサを知ろう！展示会

おもに、アオサを肥料とした栽培実験の様子をパネルで説明したブースでした。ユースの津田沼

高校生物同好会の生徒さんも一生懸命説明してくれました。

びっくりしたのは、印旛沼流域の市民団体のブースがあったことでした。谷津干潟のアオサを肥料にしてプチトマトを作る実験を行った結果が発表されていました。アオサの塩分を洗い流さずに使ったほうが、ミネラル分の多いおいしいトマトができたそうです。今まで別々に考えていた谷津干潟と印旛沼が私の中で急に近づいて、うれしくなりました。

### \* 谷津干潟ジュニアレンジャー

観察センターでは、谷津干潟を守るリーダーを目指す「ジュニアレンジャー」を育成しています。レンジャーになるためには、1 身近な自然と仲良くなる / 2 谷津干潟の生きものや自然のおもしろさや楽しさを知る / 3 谷津干潟の素晴らしさを学び、守るために行動する、という3つのステップをクリアすることが必要です。

これらを修了した子供たちは、「さわってみよう！干潟の生きもの」というコーナーを作って、クイズをしたり、アオサ、カニなどを見せながら説明して、大活躍でした。（小倉 久子）



ラムサール登録20周年のロゴ



アオサくん

# 運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを  
info@kanpachiba.com にお知らせください。  
(広報部)

## 10月運営委員会

日時 10月28日(金) 18:00~20:00  
場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・エコメッセ開催 9/28 参加者:10,200人
- ・千葉県環境学習指導技能向上講座 閉講 9/22
- ・同 指導者養成講座導入コース開講 9/15
- ・だより93号印刷・発送
- ・印旛沼流域環境体験フェア会議 10/1
- ・千葉市公民館講座 9/27
- ・ESDの活動(ELCoの会より)
- ・オイコスによる放射能測定に関する学び
- ・八千代ナガエツルノゲイトウ調査 10/8

### 【協議】

- ・だより94号 ・エコサロン
- ・ナガエツルノゲイトウに関する今後の方針
- ・プロジェクト(環境学習・エコメッセ)
- ・事務局より

## 11月運営委員会

日時 11月18日(月) 18:00~20:00  
場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・千葉環境再生基金推進委員会 10/24
- ・エコメッセ協働創造市 11/6
- ・千葉県環境学習指導者養成講座導入コース閉講
- ・千葉YMCAの11月定例会で当会活動紹介
- ・印旛沼健全化会議 ・ESDプログラムの実施
- ・その他

### 【協議】

- ・だより94号 ・12月エコサロン 12/10
- ・ナガエツルノゲイトウに関する今後の方針
- ・プロジェクト(環境学習・エコメッセ)
- ・ESDフォーラム
- ・25年度の活動の大まかなまとめと26年度方針

## お知らせ

富士山と房総の自然を語る集い

日時：12月7日(土) 10:00~13:00  
会場：千葉県立中央博物館 講堂  
定員：当日先着 200名  
参加費：無料

- ◆基調講演：世界の植生から見た房総と富士山  
講師：大澤雅彦(日本自然保護協会理事)
- ◆話題提供1 「千葉県の地質・地形と富士山」  
提供者：高橋直樹(千葉県立中央博物館地学研究科  
主任上席研究員)
- ◆話題提供2 「富士山の浮世絵から探る房総の景相」  
提供者：中村俊彦(千葉県立中央博物館副館長・  
千葉県生物多様性センター副技監)

### ◆総合討論

主催：(公社)日本山学会千葉県支部・千葉県立中央博物館

## 第5回 マッチングメッセ(環境協働創造市交流会)

日時：2014年1月27日(月) 16:00~18:00  
会場：きぼーる 多目的室(15階)  
(千葉市中央区中央4-5-1)

主催：エコメッセちば実行委員会

<http://ecomesse.blogdehp.ne.jp/>

内容：創造市の参加団体が内外の方々と、より交流を深めていただいでマッチングを促進します。  
交流会終了後、近くの飲食店で懇親会も予定。

課題 「どうやったら協働取り組みができるか」  
分野及びテーマ別グループ(例 エネルギー・エコ  
ハウス・福祉エコ・生態系など)に分かれて交流の  
後、全体わかちあいをします。

参加申し込み：エコメッセ事務局

TEL：080-5374-0019

e-mail：info@ecomesse.com

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール：info@kanpachiba.com

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

## <環境パートナーシップちば>

### 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人 1,000円 団体 2,000円 賛助会員 5,000円		